

荒川区が進める MACC プロジェクトは、荒川区独特の多彩な産業集積を活かし、区内企業の顔の見えるネットワークの形成を支援し、新たな荒川版産業クラスターの形成を目指しています。
MACC 通信では、MACC プロジェクトの「今」をお伝えしていきます！

さらに一歩前へ！「産学官金」の4者連携

都立産業技術高専技術交流会 / 視察会を開催

モノづくりの地域ネットワークをひろげる

都立産業技術高専荒川キャンパスが新年度から公立大学法人首都大学東京に移管され、独立法人化しました。これを契機に、地域のモノづくりネットワークを広げようと、4月23日、同校と荒川区産業経済部、城北信用金庫、東京商工会議所荒川支部の4者が共同で技術交流会 / 視察会を開催し、地元企業約40社が参加して“産学官金”の新たな連携をスタートさせました。

荒川区に本拠を置く東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス（航空高専）は、奇しくも今年が開校70周年に当たります。その節目となる4月1日に同校は公立大学法人の首都大学東京に移管され、組織体制も独立法人となりました。法人化によって、より独立性を強めた学校運営を図り、地域との連携にもより積極的に取り組む方針を打ち出しました。

この転換期に合わせて、今回は同校と地元自治体の荒川区産業経済部、地元金融機関の城北信用金庫、経済団体の東京商工会議所荒川支部の4者による初の共同企画として、同校キャンパスで技術交流会 / 視察会が開催されました。当日は荒川区をはじめ周辺地域の企業約40社が参加して、初の“産学官金”交流を実現。これを第一歩に地域連携ネットワークを広げていくことを確認しました。

開会に当たり、都立産業技術高専の田原正夫副校長・地域交流室長は「高専は教育・研究の成果を広く社会に提供し、社会に寄与することを目指している。法人化を機に、地域との関わりを深め、地域活性化に力を合わせていきたい」と挨拶しました。

また、荒川区の高野政義・産業経済部長は「産技高専は人的、物的、技術的な蓄積を持った有力な地域資源である。地元企業との新技術・新製品開発に新機軸を開いて、区の産業発展につなげたい」と強調しました。



視察会の様子（その1）

さらに、城北信用金庫の柴田徹造・営業推進部地域支援グループ副部長は「信用金庫は地域から離れることができない金融機関なので、地域の中小企業を応援し、産学連携の橋渡し役を果たし、企業と地域発展に尽くす」とアピールしました。

技術交流会

「都立産業技術高専・荒川キャンパスの紹介」

公立大学法人首都大学東京・東京都立産業技術高専ものづくり工学科教授・高専荒川キャンパス地域交流室主任
吉田喜一氏

高専は体験的・実践的な技術教育を通じて工学的知識・技術を身につけ、具体的な課題の発見・解決能力を養う学校だ。平易に言えば、普通高校プラス大学工学部クラス的能力を学び、専門性が高い。その教育目標の1つに「産学官金の連携を通じて地域産業の発展に貢献できる人材を育てる」を掲げている。最近では経済産業省がものづくり中小

企業の若手技術者の育成を支援するため、高専のノウハウを活用した人材育成事業を推進し、高専と中小企業の連携が活発化している。

この度の法人化で、産技高専は地域に開かれた高専としての取り組みを拡充する。荒川区とは新たに産学連携に関する協定を結び、技術向上支援講座や実習を通じて若手技術者の育成を強化する。高専のモノづくり技術と地元企業との連携による新技術・新製品開発にも積極的に取り組みたいと考えている。

「荒川区の産学連携支援策の紹介」

荒川区産業経済部経営支援課MACCシニアコーディネータ 豊泉光男氏

荒川区では現在、荒川版モノづくりクラスター(MACC)プロジェクトを強力に推進している。今年が3年目だが、スタート時から産学連携を推進し、これまでに首都大学東京健康福祉学部、都立産業技術高専との連携で、社会的ニーズの高い高齢者向け新製品・新技術の成果をあげつつある。

その実績に加えて、今後は産技高専の教員による技術相談や、モノづくり企業と産技高専との共同研究・委託研究に対する助成策などを講じる予定。

「城北信用金庫の支援策の紹介」

城北信用金庫営業推進部地域支援グループ上席調査役 川西輝明氏

当金庫の場合、荒川区が平成20年度に実施する制度融資の約半分を取り扱っている。また、コラボ産学官ファンドを通じて、地元企業の新事業展開もサポートしている。

信用金庫は、地域社会を強く意識し、地元企業のパートナーとしてお役に立ちたいと考えている。金融面だけでなく、商工会議所などと連携して取引先のような相談に対応できる体制も整えている。“産学官金”の4者連携の考え方で、ものづくり企業を支援する。

「東京商工会議所荒川支部の支援策」

東京商工会議所荒川支部経営指導員 小倉政則氏

創立130周年の東京商工会議所は、地域の事業活動を重視している。

荒川支部では現在、産技高専が進めている人工衛星の打ち上げを支援する「荒川区から人工衛星打ち上げを応援する会」の事務局として募金活動を進めている。東京商工会議所の産学官連携とMACCとの運動にも一役買いたい。

視察会

技術交流会の後、参加企業の経営者らは2グループに分かれ、約2時間をかけて産業技術高専内の施設・設備を視察しました。

視察した主な施設・設備は、電子顕微鏡・X線装置、材料強度試験・振動試験、風洞など空気力学装置、人工衛星、福祉ロボット、図書館など。



視察会の様子(その2)

懇親会



懇親会の様子

視察会の後、主催者と参加者は後懇親会を開き、「産学官金」の4者連携について意見交換したり、それぞれが個別に名刺交換をし合いました。



MACC ゼミナール

～第1回～ 新商品創出のステージ別管理()

MACCシニアコーディネータ 豊泉光男

皆様、ご無沙汰しています。豊泉です。ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか？

さて、今回からスタートします「MACCゼミナール」では、新商品・新事業創出について、少々述べさせていただきます。“明日の飯の種”のために一緒に考えていきましょう。

昨年は、皆様のお陰でMACCコーディネータを無事1年間務めさせていただきました。その間、感じた事ですが、MACCコーディネータのミッションは、荒川区モノづくり企業の活性化です。その為に、産学、産産連携を通じて新商品・新事業の創出に注力しようということです。

多くの皆様のご支援のお陰で、メタボ4商品、高齢者向け8商品、大学シーズ5商品 販路開拓1商品が創出いたしました。しかしながらこれらは、まだ、売りに上

げや利益が企業に十分寄与しているとは言えません。

私は「地域の富の創出」こそが、MACC コーディネータの最終目標であると確信しています。その意味では、道は険しく、遠いと言えます。今回は、会員企業の新商品・新事業創出すなわち“明日の飯の種”が達成されるためのステージ管理を考えてみました。

これからも、目標の“明日の飯の種”創出の頂上めざして、一緒に励ましあって、一步一步ステージを登っていきましょう。皆様へのエールとして、読んでいただければ幸いです。

新商品創出の開発ステージは、開発マインドの確立 商品コンセプトの確立 製品化 商品化 事業化の5つのステージ管理を仮定し、順に説明していきます。第1回目の今回は、開発マインドの確立についてです。

開発マインドの確立 トップのプライオリティー

大企業の回復基調と対照的に、中小企業は、ここ10年以上、業況判断DIは、一貫してマイナスであり、規模が小さい企業ほど悪いと言えます。2007年からの原油・農産物の高騰は、中小企業の業績をさらに悪化させ、利益率の低下、倒産の増加が見られます。国内市場は、少子高齢化（成熟化）と安価な輸入品の参入（グローバル化）で競争は激化し、シュリンクしている。このように中小企業を取り巻く市場環境は、20年間で大きく変化しました。

このような新しい環境変化に対応するには、中小企業は自らが新しいパラダイム変化を試み、過去の成功体験からの脱却と変革、明日への創造を行っていかねばなりません。

中小企業の経営資源は、限られていて、様々なことをトップが自ら行わなければ進まないことが多いといえます。

しかし、変革の時のトップの責任と役割は、誠に重大です。多忙なトップは、優先順位を決めることその事自体が、正に、最重要な“仕事”と言えます。

トップしかできない最重要事項を3つに絞ると言えば、捨てること（やめる事）、変えること（舵を切る）、新たに創る（アイデア・創造）と言えます。なかでも、“明日の飯の種”をつくる「新商品・新事業創造」と“明日の社長”をつくる「新社長育成」は、トップの最重要課題です。このことにまずトップは、最上位のプライオリティーを与え、努力と情熱をもって実施することを決断しなければ新商品開発のスタートは切れません。何よりもトップの強い意志表示が必要なのです。

MACC若手経営者の会 発足 迫る！

MACCプロジェクトでは、次世代の経営リーダーが自由自在な発想で、お互いの経営リソースなどを活用した新しいビジネスアイデアを産み出していこうという「若手経営者の会」(仮称)の発足準備を進めています。メンバー募集等については、近日中に開始いたします。

本音で語り合える若手経営者のネットワーク作りには是非ご活用ください！

お問い合わせは、区産業経済部経営支援課 豊泉、谷口 (TEL 03-3803-2311) まで。

MACC会員企業をご紹介する パンフレット完成しました！

お待たせしました！この度、MACCプロジェクトに参加している企業さんの事業活動等をご紹介するパンフレット、「はばたく！！MACCプロジェクト キラリと光る荒川区のモノづくり企業」を作成しました。

MACCプロジェクトに参加している企業さんの中では、既に活発な連携が行われ、またこれからの連携を話し合われている会員さんもたくさんいらっしゃいます。このように、“顔の見えるネットワーク”が旗印のMACCならではのビジネスマッチングが続々と生まれているわけですが、まだまだ、会員さん同士でも、「あの人の顔はよく見かけるけど、あそこの会社は何が得意なんだろう？」のような、素朴な疑問があるのも事実のようです。そこで、「知ってるようで知らないお隣さん企業を知ろう！」がコンセプトのこのパンフレットを活用していただき、新たなネットワークの構築にお役立て



MACCプロジェクト 会員紹介パンフレット

いただければ幸いです。意外にすぐご近所に“宝の山”が見つかるかもしれませんね！

紙面の都合により一部の会員さんのご紹介となりましたが、インタビュー等にご協力を頂いた皆様、ありがとうございました。

新コーディネータ 谷口氏を迎えてますますパワーアップ！！

この4月から新たにMACCコーディネータとして、谷口浩二さんが加わりました。谷口さんは、就任そうそう得意の英語で、ホームページの英訳をして、会員企業さんに喜んでいただいています。年齢は弱冠36歳と豊泉コーディネータとは、一回り以上離れていますが、MBAとIM(インキュベーション・マネジャー)の同窓生。

中小企業経営の経験もある苦労人ながらも、決してそれを感じさせない甘いマスク。区内企業の立場にたつMACCコーディネータとして、産学連携、新商品開発を強力に支援させていただきます。

どうぞ今後とも、谷口・豊泉を宜しくお引き立ての程、宜しく願い申し上げます。



豊泉氏(左)と谷口氏(右)

プロフィールの 谷口さんの

氏名： 谷口 浩二(たにくち こうじ)
経歴： 早稲田大学政治経済学部卒業、早稲田大学院アジア太平洋研究科国際経営修士(MBA)卒業、ベンチャー学会会員。ファイナンシャル・プランナーやリスクマネージャー、英検など保有資格多数。
建設会社経営後、NPO法人「セルフ・リライアンス・パートナーズ」理事長、国立大学アドバイザー兼講師、企業相談役などを経て、平成20年4月荒川区MACCコーディネータに就任。
専門分野： 国際経営(MBA)、ベンチャー経営論、事業再生
活動実績： 自治体創業支援協議会起業家育成事業、各種起業家セミナー、建設会社事業再生等。
ひとこと： 父の交通事故により、急遽経営者となりました。経営の苦しみを嫌というほど味わい、たどり着いた答えは「経営とは人間力」であるということ。区内企業の方々の為に毎日奮闘致します。

MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL. 4

～荒川町屋物語～ MACCシニアコーディネータ 豊泉光男
良い季節になりましたね！

「目にLeaves Mountainほととぎす初鯉」ですね。MACCコーディネータに就任いたしました、早1年が過ぎ、MACC会員の方々とも本音でお話できるようになってきました。

それにしても、荒川の人情は熱いです。町屋で道に迷って、「あー、すみません。ここぞ存知でしょうか？」と尋ねる事、両手の指の数を超過してしまいました(おっと、職員として、それはまずいんじゃないの?地図ちゃんと調べてよ)

それはさておき(それって、さておいちゃいけないよね)町屋人から、「今、忙しいから、後にして！」なんて一度たりとも言われたことはありません。かえって「近くまで、一緒にいってあげるよ」などと親切にされることの方が多いんです。

町屋の由来は、千百数年前、坂上田村麻呂が奥州攻めに外向く折、従ってきた野武士が今の荒川工業高校辺りに土着し一つの町屋をなしたことに由来するそうです。若宮八幡(南千住六丁目)は鎮守で町屋の遠祖は、南北朝末(1380年～)ころ現在の地に移ったとのこと(びっくり、町屋のご先祖様って、由緒ありますね)。そして室

町時代・天文年間(1532～1555年)には、書物に登場し、江戸地区でも早期に開墾が進んだ地域といえそうです(そうですか。古くから、賑わいが、あったんですね)。

また、江戸時代には、幕府の直轄地となり、その後、江戸の町を風水をもってして設計したといわれ、かの有名な天海僧正の東叡山領となったそうです(なるほど、天領と仏法の教えが町屋人の人柄をつくったのかもしれないね)。おっと、そんな昔のことあっしには関係ございません！の声も聞こえそうなので、この辺で現代に“タイム・トリップ！”

町屋といえば、MACCメンバー企業パンフでお馴染みの板垣さん、箱田さん、藤本さんがすぐ頭に浮かびます。あーそうそう、あっしも、“荒川5号”(自転車)で骨折物語を語ってしまったのも町屋でした。前号で紹介した珈琲ショップ『カラビナ』さんもピンピンの町屋でした。実は、『カラビナ』さんには、今度MACC通信を置いていただくことになりました。「ありがとうございます。今度のMACC通信5号もすぐ配達いたしま～す(TOMMY宅急便)待っててくださいね。病みつき珈琲「苦味ブレンドB」いつもありがとうございます。

最近、町屋のMACC会員は、元気いいですね。新商品がTV登場、特許申請等、明るいニュースが続いてます。これも町屋のご先祖様のおかげでしょうか。「温故知新」の荒川町屋物語でした。



荒川区産業経済部経営支援課

TEL : 03-3803-2311 FAX : 03-3803-2333

E-mail : macc@city.arakawa.tokyo.jp

MACCホームページアドレス

http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/